

片山定期能七十周年記念 令和二年

片山定期能 七月公演

能 通小町 青木 道喜
雨夜之伝

狂言 因幡堂 茂山 千三郎

能 胡蝶 味方 玄

令和2年7月19日(日) 午後1時開演(午後0時30分開場)
於／京都観世会館[地下鉄東西線『東山』駅下車 徒歩約7分]

★必ずお読みください★

コロナウィルス感染予防につき、公演時間を短縮するために、**能の曲目を変更させて頂きます。**(「朝長」青木道喜、「江口」味方玄は来年上演予定) また会場内の密閉・密集・密接を避けるため、入場者を150名限定と致します。そのためこの七月公演は整理券を配布させて頂きます。

◆当日の御案内は裏面を御参照ください◆

(整理券お申し込み)

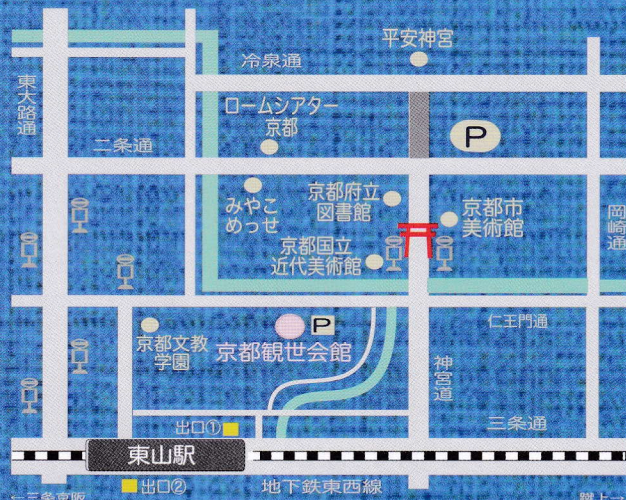
6月15日(月)より6月30日(火)まで、下記にて承ります。お一人様一枚限りです。尚、多くのご応募が予想されますので、整理券は抽選とさせて頂きます(整理券番号も抽選となります)。当選者の方には**7月10日(金)までに**御送付させて頂きます。

OBPアカデミア tel.06-6360-9501 fax.06-6360-9582

電話受付時間 平日・土曜 8:00~21:00 日祝日 9:00~18:00



WEBページには左のQRコードからアクセスできます。
<https://obp-ac.osaka/event/5080.html>
電話は混み合う可能性があります。webまたはfaxでのお申し込みに御協力くださいませ。
faxを送られる際は、御名前、御住所、電話番号を御明記ください。
公演内容についてのお問い合わせは承りかねます。



〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町44
tel.075-771-6114 fax.075-761-6005
HP <http://www.kyoto-kanze.jp>
▼9:00~17:00 月曜休館
▼東隣にコインパーキングがございます。[30分-200円]

片山定期能7月公演

[No.70-2]

令和2年7月19日(日)

午後1時開演[午後0時30分開場]

13:00

能 通小町

雨夜之伝

—かよいこまち・あまよのでん—

シテ／四位少将の霊

青木 道喜

前ツレ／里の女

分林 道治

後ツレ／小野小町の霊

ワキ／僧

小林 努

笛 左鴻 泰弘

地謡 片山九郎右衛門

小鼓 吉阪 一郎

浦田 保親

大鼓 河村 大

田茂井廣道

後見 橘 保向

橋本 忠樹

河村 博重

河村 和晃

大江 広祐

——休憩15分——

14:20

狂言 因幡堂

〈大藏流〉 —いなばどう—

シテ／夫

茂山千三郎

アド／妻

松本 薫

後見 鈴木 実

仕舞 箴

—えびら—

シテ／梶原源太景季の霊

林 宗一郎

箴太鼓

—ろうだいこ—

シテ／関の清次の妻

片山 伸吾

大江山

—おおえやま—

シテ／酒吞童子

古橋 正邦

雨之段

—うげつ・あめのだん—

シテ／里の老人

大江又三郎

女郎花

—おみなめし—

シテ／小野頼風の霊

片山九郎右衛門

地謡 武田 邦弘

橋本 儀道

清沢 一政

武田 大志

——休憩15分——

15:25

能 胡 蝶

—こちょう—

前シテ／里女

味方 玄

後シテ／胡蝶の精

福王 知登

ワキ／旅僧

中村 宣成

ワキツレ／從僧

是川 正彦

ワキツレ／從僧

網谷 正美

アイ／都一条辺りの者

笛 杉 信太郎

地謡 古橋 正邦

小鼓 曾和 鼓堂

河村 博重

大鼓 谷口 正壽

分林 道治

太鼓 前川 光範

深野 貴彦

後見 小林 慶三

河村 和貴

片山 伸吾

河村浩太郎

梅田 嘉宏

◎当日は必ずチケットと整理券をお持ちください。

◎開場時間(12:30)より整理番号順に御入場頂きます。開場時間にいらっしゃらない方は、最後尾の御入場となります。

◎全席自由席ですが、密接を避けるため、カバーの掛かった御席のみにお座り頂けます。

このような時期の開催のため、皆様には御迷惑をおかけしますが、何卒御容赦賜りますようお願い申し上げます。 片山定期能楽会

《演目解説

【通小町 雨夜之伝】

上演時間:約1時間5分

八瀬の山里で夏籠りをする僧のところに、毎日木の実や薪を持参する女がいた。不審に思った僧が名を尋ねると、市原野に住む者であると言って消え失せる。僧は女の言葉の端々から、今の女が小野小町の幽霊であると思い当たり、市原野へと出向く。そして僧が供養をしていると、小野小町の霊が現れ、受戒を乞う。すると今度は深草少将の霊が現れ、これを拒もうとする。少将は生前、小町に恋をして「百夜通い」をしたが、ついに思いを果たせず、今も地獄で苦しんでいるのだった。僧の請うままに少将の霊は「百夜通い」の有様を見せるが、そのうちに小町が諭した「飲酒戒(おんじゅかい)」を守ったことによって、悟りの道に通じ、多くの罪業を消滅させることができた二人は、仏道成就を果たす。

市原野がこの能の舞台とされているのは、あくまでも本曲で創られた設定であり、本来は深草少将の邸宅があったとされる「墨染」と、小町の邸址である山科の随心院を結ぶ古道こそが、「百夜通い」伝説の場所と言われている。ただ毎日報われることのない恋への陰しさを表すのには、より厳しい環境の場所設定こそが、この上ない演出だったのかもしれない。

狂言【因幡堂】

上演時間:約25分

大酒飲みの妻に手を焼いた男が、妻が里帰りしたことを幸いに、あとから暇の状を送り離縁する。そして男は因幡堂へ参り、薬師如来に良い妻を授かるよう祈願する。一方これを聞いて怒った妻はさっそく因幡堂へ赴き、参籠中の夫に「西門に立つ女を妻に定めよ」と言い渡し、西門へと急ぐ。何も知らない夫は、仏の霊夢だと思い、いそいそと西門へ行くと、そこには被衣をかぶった女が待っていた。喜んだ夫は、妻の悪口をいいながら喜んで家へと連れて帰るのだが……。

【胡 蝶】

上演時間:約1時間10分

旅僧の一行が都の一条大宮辺りを訪ねて、咲き誇った梅を眺めていると、一人の女性が現れる。女はこの辺りは内裏にも程近く、これらの梅は昔から貴族達も愛でた名木であると教える。そして僧から名を問われた女は、実は自分は蝶の精で、四季に咲く花と戯れることができるのだが、早春に咲く梅花にだけは何故か縁がないと答える。その悲しみから逃れるために、人間に姿を変えて現れた精は、僧に読経を頼んで消えて行く。

やがて夜になり、僧が経を手向け梅花の蔭で微睡んでいると、蝶の精が本当の姿で現れ、法華経の力によって梅花とも戯れことができるようになったと喜びを表す。そして花から花へと優雅に遊び戯れ、夜が明ける頃に霞に紛れるように消えていくのだった。

クセの件で莊子の『胡蝶の夢』のエピソードや、『源氏物語・胡蝶巻』からの引用が見受けられるが、曲自体はシンプルな仕上がりとなっていて、早春の浮き立つような気分を表現した、ある意味異質の三番目物となっている。

《チケット取扱

京都観世会館 9~17時 月休 075-771-6114

片山定期能楽会事務局 10~17時 日休 075-551-6535

一般前売 3,500 円 学生 2,000 円

回数券(3枚綴) 10,000 円 ※今回当日券の取扱はございません。

※一度に複数枚お使い頂けます。

《次回公演の御案内

片山定期能9月公演

令和2年9月20日(日)

午後1時開演[午後0時30分開場]

能「俊 寛」 河村 博重

狂言「寝音曲」 小笠原 匡

能「井 筒」 古橋 正邦

能「小鍛治」 梅田 嘉宏

片山定期能4月公演(代替公演)

令和2年12月13日(日)

午後1時開演[午後0時30分開場]

能「杜若・恋之舞」 清沢 一政

狂言「清水」 茂山 忠三郎

能「野守・黒頭」 片山 伸吾

▽出演者等の変更がある場合は御了承くださいませ。

▽見所内での録画・録音は固くお断り致します。

▽同じく見所内での携帯電話やスマートフォンは、必ず電源をお切り頂きますようお願い申し上げます。

マナーモードも御遠慮くださいませ。

主催／片山定期能楽会

〒605-0088 京都市東山区西之町224

片山家能楽・京舞保存財団内

tel.075-551-6535

fax.075-532-2841

16:35頃 終了予定